

# 論壇

ハッシュ  
#=hash  
「徹底的に論じる」  
(アメリカ口語)

大学が、危機に瀕している——。現役の大学生が当事者として、新型コロナウイルスの脅威に揺れる学生たちの窮状を報告し、論じている。平時には見過ごされてきた「格差」が顕在化し、大学のセーフティネットとしての機能も失われつつあるというのだ。



田中駿介さん

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、学内への立ち入りを原則禁止する大学が相次ぐ  
4月9日、東京都内



新型コロナウイルス対策のため学内立入禁止

## 学生の多様性 失えば国に打撃

今回の論考者

田中駿介  
「新型コロナで露呈する学生の『格差』問題」

(論座、4月11日、<https://webro.nza.asahi.com/national/articles/2020041100003.html>)

### 当事者、自己責任に疑問

講義をオンラインに切り替える、キャンパスは立ち入り禁止にする大学が増えている。現役の大学生である田中駿介は、受講に必要なパソコンやインターネット環境を自己責任で用意させる大学の姿勢に疑問を呈する。外出自粛に伴う急激な変化により、学びの場と機会を奪われた当事者の貴重な声である。  
学ぶ機会を剝奪されている  
(ジャーナリスト・治部れんげ)

論壇委員から

筆者は、慶応大学4年の田中駿介さん(24)だ。論考をネット上で発表したのは4月中旬で、それ以降、オンライン授業を受けるためのネット環境の有無や、アルバイトができないことによる経済的な負担といった問題は徐々に可視化

され、同大も含めて対策に取り組んでいる。ただ、学生たちの不安は残る。学生の有志団体「Change Academia」代表の山岸翔香さん(26)が、各大学へ学費減額を求める署名発起人らによるグループを立ち上げると、3日間で70人超が集まった。サークルやアルバイトに出られず一人暮らしで孤立したり、大学を中退すると就職に悪影響が出ないかを心配したりといった声が伝わってきた。「通えなくなる人は仕方ない」と切り捨ててよい話ではない」と山岸さんは言う。「色々な背景や視点を持つ人が学問の世界にいなければ、10年後のこの国に、深刻な問題をもたらすのではないのか」

困難な状況は経済的な側面にとどまらない。発達障害のある学生への支援活動の経験から、田中さんは「学生相談室」を例に挙げる。履修や人間関係といった様々な相談に乗ったり、メンタル面のカウンセリングをしたりする場だが、多くの大学で構内の閉鎖に伴い、

対面業務を抑えざるを得ない。2年前、東京都内の短大を卒業した女性(24)は、入学した直後から週に1度ほど、学内のカウンセリングルームを利用し、「駆け込める場所があったから卒業できた」と振り返る。カウンセラーとの関係構築は、実際に会うてではないと難しい部分があり、電話やメールで思いは伝えにくいという。「この非常時で、ただでさえ大変な思いを抱える人たちが、行き詰まってしまうのではないかと危惧する。田中さんは「こうしたセーフティネットがなくなり、困難を抱える学生の居場所がなくなることも考えられる。大学は多様な学生が学ぶ機会を担保するための機能を、しっかりと守らなければいけない」と話す。

情勢は刻一刻と変化し、新たな問題は次々と生まれてくる。学生を大学の意思決定の場に加えることの重要性を田中さんは強調する。「大学は当事者の声を採り入れ、一刻も早い対策を行わなければ、退学者が続出してしまふ」

田中駿介さん

田中駿介さん

日本経済

◆オピニオン面で毎月掲載する「論壇時評」のため、論壇委員会が開かれています。委員が注目する論考を1本選んで、記者が深掘りします。